

河原口坊中遺跡

(海老名市No.52 遺跡)



| | |
|------|-------------------------------|
| 調査期間 | 20061117～20070228 |
| | 20070816～20080331 |
| | 20080901～20090331 |
| | 20090901～20100215 |
| | 20100801～20110430 |
| 所在地 | 海老名市河原口 |
| 時代 | 弥生 古墳 奈良・平安 中世 近世 |

作成日:20120718

概要

ここで紹介する内容は、河原口坊中遺跡(河川改修Ⅰ)の発掘調査概要です。

この調査は、神奈川県厚木土木事務所による相模川河川改修事業・さがみグリーンライン事業(自転車道整備事業)に伴って実施しています。この事業による発掘作業は平成18年度から断続的に実施され、平成23年4月までで現地での発掘作業は一区切りとなりました。現在、出土品等整理作業を当財団の野庭出土品整理室で行っています。

当財団が実施している河原口坊中遺跡の発掘調査は、本事業に伴う調査のほかに、河川改修事業(単独)に伴う調査とさがみ縦貫道路建設事業に伴う調査とがあり、現在、3事業とも出土品等整理作業を行っています。河川改修事業に関連する調査が2つあるため、河川改修事業・さがみグリーンライン事業(自転車道整備事業)に伴う発掘調査を「河川改修Ⅰ」、河川改修事業(単独)に伴う発掘調査を「河川改修Ⅱ」として、便宜的に呼び分けています。

河原口坊中遺跡は海老名市河原口に所在し、JR相模線および小田急小田原線の厚木駅の北北西約1km 付近の相模川沿いに広がっています。遺跡は神奈川県の中央部を南



▲ 調査地周辺の状況(平成23年4月)



▲ 2区(H19年度)古代面調査風景

流する相模川の左岸に形成された沖積微高地に立地していて、ちょうど相模川と中津川、小鮎川の3河川が合流する地点の東岸にあたります。

遺跡の範囲内には、古代末から中世に活躍した海老名氏の菩提寺とされる宝樹寺の伝承地があり、遺跡の北東側には延喜式内社の有鹿神社があります。また東方約2.3kmに相模国分寺跡・相模国分尼寺跡、北東4kmの丘陵上には、秋葉山古墳群があります。

河原口坊中遺跡は弥生時代から近世におよぶ複合遺跡として周知され、これまでに行われた発掘調査によって、弥生時代中期および弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡、古墳時代後期の溝跡や墓跡、奈良・平安時代の集落跡、中世の集落跡、近世以降の集落跡および生業遺構などが発見され、各時代の土器や石器、木器、金属製品、ガラス製品などが出土しています。

河原口坊中遺跡(河川改修Ⅰ)の発掘調査は、相模川左岸に作られている堤防に沿った長さ250m、幅3～13mの南北に細長い範囲が調査対象で、これまでに6年度に亘って5回の発掘作業を実施しました。

発見された遺構と遺物の概要は次の通りです。

【近世】

掘立柱建物跡、竪穴状遺構、溝状遺構、道状遺構、畝状遺構、井戸、土坑が発見されています。陶磁器、土製品、銭貨などが出土しています。

【中世】

竪穴住居跡、溝状遺構、柱穴列、井戸、土坑が発見されています。主に調査範囲の北寄りに分布しています。かわらけ、陶磁器などが出土しています。

【奈良・平安時代】

竪穴住居跡と掘立柱建物跡、竪穴状遺構、溝状遺構、土坑などが発見されています。調査範囲の北寄りでも多く発見されていて、より北側に分布の中心があるようです。土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、鉄製品が出土しています。

【古墳時代後期】

溝状遺構や古墳の埋葬施設と考えられる小石室などが発見されています。土師器、須恵器が出土しています。

【弥生時代中期～古墳時代前期】

弥生時代中期以前の土器が少量出土していますが、住居跡などの遺構が作られるのは弥生時代中期後葉になってからです。調査範囲の北側半分で竪穴住居跡が130軒余り密集・重複して発見されています。また、方形周溝墓と呼ぶ墓が2基発見されました。調査範囲の南側半分では、河道跡



▲ 2区(H19年度)弥生時代中期面



▲ 3区 3号・4号しがらみ遺構出土状態(弥生)



▲ 1号旧河道内 梯子出土状態(弥生)



▲ 1号旧河道内 木製高坏出土状態(弥生)

が発見されています。河道跡は弥生時代中期から後期末まで徐々に埋まりながら流れていて、弥生時代後期後半頃の河道中に、漁労施設と推定される「しがらみ遺構」が作られていました。出土遺物は、土器、石器、金属製品、ガラス製品、骨角器、木器などがあります。中でも石器では柄付き環状石器が、金属製品では板状鉄斧や小銅鐸、銅環（指輪状の銅製品）が、骨角器ではト骨（占いの道具）や剣の柄などが、稀少な遺物として特筆されます。また河道跡からは木器が多数出土し、農具、漁労具、紡織具、容器、建築材など多彩な種類があります。木器は腐りやすく台地上の遺跡ではほとんど残らないため、今回の出土品は貴重な資料です。



▲ 2号旧河道内 板状鉄斧出土状態（弥生）



▲ 板状鉄斧 長さ 28.3cm （弥生）